年祭活動二年目、陽気づくめの世界を目指して

▲年頭会議前、神殿にて（1月2日）
◀少年会スキー練成会の様子（記事4ページ）

ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp
夕張大教会
LINE友達登録
お願いします

子供の心へと還り この一年、親神様にもたれましょう

真実の親、親神様は、私達を片時も忘れず、世界中の子供達が、この世で救われる日が来るのを待っていらっしゃいます。自分に出来る事は、真実の親の働きを信じて、世のきょうだいの為に出来る種蒔きを、地道に続けて行く事だと思っております。若輩ですが、とにかく今日の日に一つ、何か親神様が喜んで下さる種を蒔かせて貰えば、それで人生が終わっても満足だと思いたいのです。

教祖百四十年祭へ向かう二年目の今年も、夕張大教会の心定めは、おぢば・上級教会での「ひのきしん」と、少年会員の「おぢば帰り」の二つです。道を楽しむ先達として、先ず私達から、おぢばへ、上級へと足を運ぶ事を喜び、「それが楽しい」と子供達に伝える努力を、今からでもしたいと存じます。そして自分が出会う子供達とは、何が何でも一緒に遊ぶ時間を作り、話を聞いてあげて下さい。信仰の喜びを伝えたいからこそ、何も考えず遊んであげて下さい。良い物は自然に伝わります。

私は今でも、子供の頃の一人の淋しさが浮かびます。だから、日が暮れるまで一緒に遊んでくれた大人の事は決して忘れません。そこに大切な物があるのではないかと思うのです。

大教会長　藤田大和

お知らせ

月次祭　3月15日（金）9時30分 開扉献饌

祭典終了後、春季霊祭　3月28日

春の学生おぢばがえり　3月30日

鼓笛練習会

春季大祭の模様

立教187年の新年は、1日の石川県輪島地方に起きた地震に衝撃を受け、三年千日の二年目に向かう我々の覚悟を試されているような、一年の始まりとなった。道内では、日本海側を中心に強烈な寒波が襲う時がしばしばあり、自然の厳しさを改めて感じる年明けとなった。

迎えた春季大祭当日、15日も道内各地で大雪が予想され、悪路に参拝を断念する方もあった程だったが、想定以上の奉仕者、参拝者が年の初めの大祭を勤めようと大教会に参集した。定刻9時半より開扉献饌。献饌の後、祭文を奏上した。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。神殿にて賑やかにおつとめが進む間も、外では深々と雪が降り続いていたが、その中もひっきりなしに参拝者が訪れていた。

おつとめ後は、大教会長が壇上に立ち、昨年一年のお礼を述べ、講話を勤めた。大教会長は「ひきよせ新年号の中に、是非ご覧頂きたいものがあります。大教会に昨年10月にお越し下さいました、松田理治世話人先生の講話全文の後半部分を掲載しております。松田先生のお話の最後の方に、アフリカのコンゴブラザビル教会に新しい教会長さんが誕生された話があったと思います。ギイ会長さんという方ですが、生まれも育ちもコンゴ共和国なので、日本語は話されないのですが、神様のおてびきにより信仰の道に入られ、現地で教会長後継者に推薦される迄の人となられました。昨年念願だったおぢばへ帰り、用木となり、教人となり、教会長資格検定に合格され、修養科で一期講師も務められました。この新会長さんは母国語のフランス語とも英語とも違う、日本語で綴られたおつとめの地歌とお手振りを、全て覚えられ、日本人よりも美しく手を振られると、聞かせて頂きました。一生の内におぢばへたった一度帰ることが出来たら、それはもう万々歳で、おさづけを取り次げる用木となる日を現地の方々は夢に見ていらっしゃると。更には、日本よりも平均寿命が大幅に短いお土地柄であるとも聞き、50才を超えるともう次の世代にバトンタッチを考えるんだとも、松田先生から聞かせて頂きました。どうぞ皆様ひきよせを読んで下さい。

神殿講話全文は、右のQRからご覧いただけます

正月4日から、私も妻もおぢばへ帰り、直属会長一同、真柱様へ新年ご挨拶を申し上げ、明けて5日から三日間、お節会のひのきしんに参りました。今年は約5万人の方がおせちを食べに来られ、ひのきしんの方はおよそ5千人だったそうです。

さて、6日の夕刻、私は本部雅楽部の新年の初稽古に参加させて頂きましたが、練習会場の越乃国詰所で、越乃国大教会の会長様にお会いすることが出来ました。能登半島を中心に北陸地方に甚大な被害が及びました大地震で、輪島にある部内のお教会が被災された事をお聞きしました。現地にいらっしゃる多くの教友の皆様の事を、大教会長様も案じておられ、被災された教会の会長さんはじめ、教会に繋がる方々が一応無事であった事を教えて下さいました。ようやく電話が繋がった時、大教会長様が、どう声をかけてあげたら良いかと、「こんな事が起きて、周りは心配もするし、気の毒に思うけれど、あんたは大丈夫か？こんな中で喜べるのはあんたしかおらんもんな。大変やったな。喜べるか？」と尋ねられたそうです。すると思いもよらず、被災された教会の会長さんが「大丈夫です！」と明るくお答えになったと、目を細めていらっしゃいました。また一から頑張るという気概を見たのだとのお話に、私は目が熱くなりました。

昨年の10月に本部大祭の神殿講話で、真柱様のお言葉を頂戴致しましたが、その中でおっしゃいました『教祖は決して諦めなかった』との内容が強く響きました。教祖は諦めずに、にをいを掛けられた。諦めずに、教えを説かれた。喜び方、言葉の使い方、心の使い方。教祖は分かる人にも分からない人にも、話を聞き分けてくれない人々にも諦めずに教えを伝え続けて下さいました。それがひながたであると思うので、私も諦めないで、自分の力は無いけれど、「広めたい、伝えたい」という心はいつか親神様がお受け取り下さるともっと信じて、地道でも定めた年祭活動を果たしたいと思います。教祖は神様なのですから、何でも思うように出来たはずだと思うのですが、諦めないというひながたを後の私達に残して下さった事が、私たちの励みになるのだと思います。

今回の地震について、例えば小さな子ども達から『どうしてこんな事が起きるの』と尋ねられたら、私たちはどう答えるでしょう。世間で言えば、『そうだね、こんな怖い地震なんか世界から無くなればいいのにね』と答えたくなります。けれども親神様のお身体に住まわせて頂いていると自覚する私達信仰者は、世間とは一味違う思いを伝えたいと思うのです。大地がほんの少し震えただけで、人間にとっては大災害になってしまう。けれども、同じ大地の力は、動物や植物、命あるものを育ててくれる恵みの熱も与えてくれています。世界中の数えきれない命が成長し、生きていく為には、こんなにも巨大な地球のエネルギーが必要で、しかも一度に熱を与えすぎるとマグマが噴き出て、住めない土地になってしまいます。この大きすぎるエネルギーを地球がほんのちょっとずつ逃す働きが地震や噴火になり、それに伴い津波も起きてしまうのですね。親神様はきっと「ごめんね」と僕らに言いたいのではないかと思います。「この力は少しずつ逃さなくては仕方がないんだ、だから普段から備えておいて、いざという時は人間同士どうか助け合っておくれ」と親神様は思っているのではと、私は私なりに、自然に感謝すること、助け合う心の準備をしておくことを、子供達に伝えたいなと思っています。

最後になりますが、おたすけや人間関係のこじれた現場で、自分が出来る事、何かを変えられる事というのは、本当に無いなと、痛切に思います。ましてこんなちっぽけな自分が、教祖の教えを伝える事は本当に難しいと感じます。しかし、親神様はそうは思っておられないと思い直すようにしております。大勢の人の前で素晴らしいスピーチをしてくれる人も、一人の人と、一日ずっと一緒に寄り添ってくれる人も、親神様は同じように喜んで下さる。親は決して私たちを比べたりしない。心の中身を見てくれていると、信じます。」と話された。

祭典後には、進級進学のお願いづとめがつとめられ、その後、前日より有志の婦人さん方や青年さんのお力によって準備され、お供えされた美味しい赤飯が、お下がりと共に配られた。さらに、ロビーでは女子青年が久々にコーヒー店を出し、大教会が更に明るくなった。参拝者は身も心も温まって、吹雪の中それぞれの帰路に着いた。

あなたと自然体の信仰を語る

夕張のキになる人

夕張につながるようぼくさんの中から、年祭に向かうこの旬に、心勇んで活躍される「キ」になる方にお話を伺いましたので、ご紹介いたします。

『おかえり』の一言が私の元一日

馬追分教会 教人　竹田 悦子

63歳　苫小牧中央高等学校卒
社会人時代の身上を機に修養科を志願。その後、竹田洋氏（馬追分）と結婚し、その明るい性格で、ムードメーカーとして自教会を盛り立てている
大教会HPに、未掲載部分を公開（右QRコード）

信仰の元一日は

23歳のころ、仕事で体調を崩しているときに、正一会長さん（馬追分三代会長）が実家に来てくださって、修養科を勧められました。母は、馬追の信者家庭に育ちましたが、結婚後はお道から離れていて、私も天理教については、ちんぷんかんぷん。でも、人生を見つめなおしたくて、修養科に入ることを決めました。そして、初めておぢばがえりをし、修養科に入る前に、一人で教祖殿を参拝したとき、不思議なことに急に泣きだしてしまって…。なんか、『おかえり』っていう言葉が、聞こえたんですよね。私も、「ずっと探し求めていました」みたいなことを言っていて、なぜか申し訳なかったっていう気持ちが溢れ、30分くらい泣いていました。当時は、そこに教祖がご存命だということも、まったく知らなかったんですけど、その出来事が一番衝撃的で、それが私の元一日ですね。

その後、修養科でお道の話を聞いているうちに、教祖殿で泣いたときのことが思い出されて、私は前生どんな悪いことをして、教祖にお詫びしていたんだろう、なんて考えたりしました。

神様を感じた瞬間は

実は、一昨年の年末に風邪をこじらせて、40度近い高熱とひどい咳が続きました。コロナ禍の影響もあって、入院することもできず、本当にこのまま死んでしまうんじゃないかと思うような毎日。そんなとき、ふと『身体は神のかしものや』っていう言葉が思い浮かんで、今までの自分を反省して、もう少し身体を使わせてほしいってお願いしたんですよ。そしたら、すーっとっていうか、ピタッと咳が止まって、深呼吸ができるようになったとき、すごく神様を感じましたね。そしてさらに不思議なことに、その日に持病で通院しているかかりつけの病院へ行ったら、入院先を探して下さって、そのまま入院できました。神様のなさることはすごいなあって思いましたね。

知れば知るほど、お道はすごいなあって思います

次代に信仰を伝える上で心がけていることは

まず、不足を言わないこと。不足は切る理だから、信仰をつなぐ上では、不足を言わない、聞かせないことはとても大切だと思います。あとは、子どもに信仰の元一日を伝えることと、そして家庭円満。主人とは基本仲がいいですが、感謝を忘れた言葉づかいなども、子どもに聞かせることはできるだけせずに、夫婦の見本でいたいなと思います。どれだけ立派な話を教会で聞いてきても、家庭でそんなことしていたら違うじゃないかって思われても困るなと思って、意識していましたね。

お道の魅力とは

去年、約30年ぶりに二回目の教人講習に行きました。きっと一回目と同じお話を聞かせてもらっていると思うんですけれども、当時理解できなかったことを改めて聞かせてもらうと、知れば知るほどすごいなあって思います。こうやってずっとお道を通っていくことで、優しくなれる、感情を抑えられる、人のことを願える、とだんだん性格がいい人になってくるんでしょうね。本当に素晴らしいことですよね。

年祭活動について

昨年末から、自教会のみなさんと月一回、大教会でひのきしんをさせてもらっています。主人と話をして、まず私たち二人は必ず運ばせてもらう心を定めて、さらにみなさんに声をかけました。そしたら、すごく勇んで下さって、初回の時には、なんと10人も集まりました。若い大教会長さん夫妻の思いに沿うようなことを、何もできずにいたと、ずっと心にあったので、年祭活動期間中は、毎月何かさせてもらおうと思っています。

来る年に願いを込めて
大教会、大掃除餅つき

12月29日、大教会にて恒例の大掃除と餅つきが行われ、教会内は大いに賑わいをみせた。

年末は、岩見沢を含め、美唄、や旭川方面で大雪に見舞われ、またインフルエンザなどの感染症も継続的に流行していた。その影響で、当初予定していた参加者が来られない事態ともなったが、集まった方々は、一年の感謝と、来る年への平穏無事を願い、大掃除、餅つきに励んだ。

また、28日には詰所でも、新年にご本部へ供えるための餅つきが行われ、詰所在住者をはじめ、数名のひのきしん者が集まり、心を込めてひのきしんを行った。(岩佐)

大教会餅つきの様子（写真上下）

ひのきしんで教会も心もきれいに
峰延分教会大掃除

12月30日、峰延分教会で毎年恒例大掃除がありました。少年会員も6名参加。

ひのきしんの後は美味しいうどんを食べて、会長さん、奥さんが作ってくれたひもくじ【左写真】を楽しみました。(新生生・梶川文吾)

楽しいおいしい冬の思い出
少年会スキー練成会

少年会では1月20日、岩見沢萩の山市民スキー場にて、スキー練成会が行われた。

大教会で参拝後、さっそく移動。スキー場はコロナ禍の収まりもあってか、昨年以上の賑わいをみせ、その光景に日常のありがたさを改めて感じることができた。記念撮影を終えて、子どもたちはリフトへ。育成会員が同行しながら、それぞれの腕前に合わせて、友だちと一緒にスキーを楽しんだ。

昼食はロッジで、おいしいカップラーメンなどを食べ、冷えた体を温めて、再び滑降。寒さも忘れ、笑顔いっぱいの子どもたちの姿が印象的だった。(岩佐)

愛知 ▷▷▷ 夕張
高橋悟志の
布教日誌 vol.9

気付けば年も明け、布教の家生活も残り少なくなってきました。1月には、雪も降り寒い中ではありますが、元気に陽気に頑張っています。

12月は、1月から団参などの行事が多くあるため、一人で集中して歩ける最後の月でした。今まで行っていなかった地区などを周り、悔いの無いようにできたと思います。

1月はおせち団参、春季大祭団参などの行事があり、また、心定めとして寮生全員が1月中のおぢば帰参を掲げ、目標に向かって頑張りました。おせち団参、大祭団参合わせて26名の方に参加して頂き、皆さんに喜んでもらえるいい団参になったかなと思います。

個人としては、今月はおぢば帰参と合わせて初席者の御守護がありました。9月に知り合った大学生の子で、快く初席を運んでいただきました。別席のお話も真剣に聞いてもらえ、終わった後もいいお話だったと言ってもらえました。今後も丹精を続け、よふぼくになってもらえるように頑張りたいと思います。

12月25日　廻廊ひのきしん

庶務部　1月

▽初席
青木　優介（祝梅）1・28

▽学修大学の部スタッフ事前研修会
高橋都志子（祝梅）

▽詰所当番
2月　梶川創一郎（新生生）
3月　藤﨑　実（旭都）

大教会日誌抄　1月

1日　元旦祭
2日　年頭会議
4日　会長夫妻、おぢばへ
5日　会長夫妻、お節会ひのきしん（～7日）
6日　前会長、清眞布分、巡教
7日　前会長、幌都分、巡教
8日　前会長、旭都分、巡教
11日　前会長、峰延分、巡教
12日　会長、長沼分、巡教
13日　会長夫妻、帰会
15日　会長、理喜道分、巡教
19日　会長、馬追分、巡教
20日　大祭準備（～14日）
22日　春季大祭
23日　会長夫妻、札美分参拝
24日　少年会スキー練成会（萩の山）
26日　会長、兵神大、春季大祭参拝
27日　会長、本部神殿当番
29日　前会長、おぢばへ
　　本部春季大祭
　　遥拝式
　　会長夫人、おぢばへ
　　会長、かなめ会、帰会
　　会長、南空知支部災救隊
　　冬季訓練（～30日）
　　会長夫人、帰会